

○明治廿七年九月十日

戰時ト稱スヘキ時期ノ件

明治廿七年八月七日閣議へ提出陸軍大臣

宣戰講和ハ固ヨリ天皇ノ大權ニ屬シ一ニ君主ノ大旨ニ依ルヘキハ論ヲ俟タス
而レトモ宣戰ノ詔勅ハ聖旨ノ存スルトコロヲ廣ク告諭セラレタルモノニシ
テ其實アラシムルハ之ヲ換言スレハ其大旨ヨリ生スル結果ヲシテ臣民ニ
遵行セシメ且平戰兩時法規適用ノ界限トナサントスルカ如キハ之レヲ
公文武ノ定ル方式ニ依テ公布セラル、ヲ以テ至當トナスヘキニ似タリ然
レトモ君主一タヒ交戰ヲ宣告セラレタル以上ハ事實其日ヲ以テ戰時ノ
界限トナサルヲ得ス

抑モ宣戰ハ天皇大權ノ一タルハ帝國憲法ノ明記スルトコロニシテ疑
ノ存スヘキナシ而シテ其大權發動ノ形式ハ依ルヘキノ條規ナキヲ以
テ詔勅トシテ公示セラル、モ勅令トシテ公布セラル、モ其効力ニ於

テハ差異アルコトナリ其何レニ由ルモ固ヨリ憲法ノ認ムルトコロニシ
テ之レヲ変例ニ徴スレハ議會召集衆議院解散ノ如キハ詔勅ヲ
以テ命セラレ大赦ノ如キハ勅令ヲ以テ發セラレタルモノアリ又大詔
ヲ發シテ聖意ヲ下示セラレ勅令ヲ以テ之レヲ行ハシメラレタルモノ
アリ大權發動ノ作用ハ形式規矩ノ外ニアルモノ、如シ
而シテ明治十五年布告第三十七号「法律規則中戰時ト稱スルハ
外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ之トナスモ天皇交戰ヲ宣
告セラレハ即チ戰時タルハ論ヲ待タス而シテ此布告ハ大權發
動ノ形式必ラス布告ヲ要スルモノトシ憲法ノ精神ニ背戾スルモ
ノナルヲ以テ憲法實施ニ由リ消滅ニ歸シタルモノト云ハサルヘカラス
議者或ハ第三十七號布告ハ其効ヲ存シ詔勅ハ布告ノ一種ナ
リトナスモ布告ハ專ラ今日ノ所謂法律勅令ノ義ニシテ詔勅ヲ
包含セサルハ公文式發布以前ノ変例ニ徴スルモ區分明白ニシテ曲

論ヲ容レサルモノ、如シ

故ヲ以テ宣戰ハ布告ノ形式ニ依ルノ要ナク宣戰ノ詔勅ハ即チ其
日ヲ以テ戰時ト公認セラレタルモノトナサ、ルヘカラス

右ノ理由ナルヲ以テ特ニ戰時ヲ定ムルノ法令幾布ヲ待タズ宣戰ノ
詔勅アリシヨヲ以テ戰時ノ限限トナサントス然レモ此事タル天皇大
權ノ作用ニ關シ且ツ其結果ノ及ホス所容易ナラサルヲ以テ爰ニ閣議
ヲ請フ

決議

明治廿七年八月廿五日

戰時限限ノ儀ハ宣戰ノ詔勅公布ノ日ニ拘ラス實際戰ノ成立シタ
ル日ト心得ヘシ

戰時平時區分ノ件

明治廿七年九月一日閣議ニ提出

海軍大臣

今般對清國事件ニ付戰時平時ノ區分海軍ニ於テハ軍令ニ依リ各軍艦戰備ヲ
為シ戰艦編隊ヲ以テ佐世保軍港ヲ出發セシ日即チ七月廿三日ヲ以テ戰時
ノ始期トスルヲ至當ト存候得共重要ノ件ナルヲ以テ茲ニ閣議ヲ請フ

決議

明治廿七年九月十日

戰時平時區分ノ件ハ實際戰ノ成立シタル日即チ七月廿五日(豐島海戰ノ日)
ヲ以テ戰時ノ始期ト為ス儀ト心得一キ上日本日指令相成ル